

JR横浜線「輸送力」の増強を！

公明党 市会議員 高橋まさはる 緑区フォーラムで訴え

財政の健全化へ
議員定数、報酬、
事業の見直しを



横浜市を貫くように走るJR横浜線

◆ 高橋が取り組む課題 ◆

- (1) 混雑の緩和へ
8両→10両へ拡大を
- (2) 終電時間の繰り下げを
- (3) 駅のバリアフリー化を
さらに進めます
- (4) 駅からのバス路線を
もっと整備します

緑公会堂で開催された緑区フォーラムで、公明党市会議員の高橋まさはるは、JR横浜線の輸送力増強を強く訴えました（1月17日）。
関東圏・関西圏では大手鉄道各社が輸送力増強につとめた結果、1965年当時、平均238%あったラッシュ時1時間の混雑率は、2009年現在、平均153%にまでに緩和されています（『大手民鉄の素顔』2010年）。しかし、横浜市の一大動脈であるJR横浜線は、依然と



緑区フォーラムで、横浜線の輸送力増強への挑戦を力強く述べる高橋まさはる（緑公会堂で）

して181%（JR東日本ホームページ、2009年）と、高い数値を示しています。
こうした現状をふまえ、緑区フォーラムで高橋まさはるは、次のように語りました。
横浜線は横浜市民、緑区民にとっても最も身近な「足」です。しかし「本数が少ない」「混雑が激しい」「終電が早い」など、多くの声が寄せられているのも事実です。高橋まさはるは自身、これまでJRや行政に、横浜線の輸送力増強を訴え、働きかけてきました。今後、次の4点に重点的に取り組みます。
①現在の8両を10両にして、輸送力を増強し、混雑を緩和する。
②終電時間を繰り下げ、利便性を高める。
③駅のバリアフリー化を更に進める。
④駅からのバス路線を整備する。
これまで2期8年間で4000の市民相談から100以上の実績を実現した高橋。同フォーラムでは、小児救急電話相談（いいナース・朝までナース）、認知症コールセンターの創設、地域

見守りネットワーク事業・ふれあい収集の実現、ジョブマッチング横浜事業の創設等の実績について語りました。
また同フォーラムで高橋まさはるは、市財政の健全化が急務であると強調。議員定数、議員報酬にも鋭く切り込んでいくと、決意を披歴しました。

これまで市会公明党では、横浜市で市会議員の定数を「6」削減。さらに政務調査費の領収書を「1円以上から公開」にしました。また議会のたびに議員に支給されていた日当などの費用弁償を廃止。この結果、年間5000万円以上の経費削減となりました。
これらの実績をふまえ、市会公明党では、政務調査費を廃止し、議会改革を具体的に推進してまいります。

4000の市民相談から100の実績

- いいナース・朝までナースの実現
- 認知症コールセンターの創設
- 地域見守りネットワーク事業
- ふれあい収集の実現
- ジョブマッチングよこはま事業の創設



古屋範子衆議院議員も応援に。フォーラムでは、子宮頸がんワクチンの公費助成が自己負担なしで実現したこと、また、乳幼児のためのヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンも自己負担なしでの接種が可能になったこと等が報告された

みどり公明

公明党 緑支部ニュース
第12号
発行責任者：
横浜市会議員 高橋正治